

Q 2 4 ご勤務先には産業医や産業保健師/看護師などの医療スタッフが勤務していましたか。

(本社にいれば「いた」に含めます)。

1. いた 2. いなかった 3. わからない

Q 2 5 治療中や治療後の働き方について、会社の医療スタッフに相談したことはありますか。

1. ある 2. ない (理由 _____)

Q 2 6 治療中や治療後の働き方について主治医に相談したことはありますか。

1. ある 2. ない (理由 _____)

すべての方にかがいます。

Q 2 7 診断時、あなたが扶養する家族はいましたか。 1. いた 2. いなかった

Q 2 8 診断時と現在で就労の状況が変わりましたか。 1. はい 2. いいえ



Q 2 9 就労の状況が変わった理由としてあてはまるものに○をつけてください。

1. 自分の希望 2. 雇用側からの指示 3. その他 (具体的に _____)

Q 3 0 現在の就労について、あてはまるものひとつに○をつけてください。

1. 常勤職 2. パート・アルバイト 3. 無職 (専業主婦を含む) 4. 学生



Q 3 1 将来は働きたいと思いますか。

1. はい 2. いいえ

Q 3 2 ~ Q 3 5 にもお答えください。

Q 3 6 にお進みください

Q 3 2 現在のお仕事についてうかがいます。

1. もしあなたが今の仕事をもう一度選ぶかどうか決めなければならないとしたらどうしますか。

- a. ためらわず同じ仕事を選ぶ
b. 同じ仕事を選ぶかどうか迷う
c. 絶対に今の仕事は選ばない

2. もし今あなたが仕事を何でも自由に選べるとしたら、どうしますか。
- a. 同じ仕事を選ぶ
 - b. 違う仕事を選ぶ
 - c. 働きたくない
3. もし、あなたの友人があなたのような仕事をしたいと話したら、あなたはその人に何と
言うでしょうか。
- a. この仕事を強くすすめる
 - b. すすめるかどうか迷う
 - c. やめるように言う
4. 全体として、現在の仕事にどのくらい満足していると言えますか。
- a. とても満足している
 - b. やや満足している
 - c. あまり満足していない
 - d. 全然満足していない

Q 3 3 現在、あなたが扶養する家族はいますか 1. いる 2. いない

Q 3 4 勤務部署・勤務先の変更はありましたか。 a. はい b. いいえ



Q 3 5 変更内容と理由について、あてはまるものにそれぞれ○をつけてください
 変更内容 a. 同じ職場の違う部署に異動（一時的異動も含む） b. 違う職場に転職
 理由 a. 自分の希望 b. 雇用側からの指示 c. その他（具体的に ）

すべての方にうかがいます。

Q 3 6 就労に関する悩みについて、診断後、誰かに相談したことがありますか。

- 1 相談したことがある 2. 相談したことはない



誰に相談しましたか。

- a. 家族 b. 友人 c. 患者会 d. 主治医 e. 看護師 f. ソーシャルワーカー
- g. 職場の医療スタッフ（産業医など） f. 上司 g. 同僚
- h. その他（ ）

Q 3 7 診断後の就労に関して実際に困ったことがありましたら、どんなことでもご自由にご記入ください。

Q 3 8 診断後の就労に関連して、知りたかったことやほしかった支援・配慮について、どんなことでもご自由にご記入ください。

Q 3 9 現在おいくつですか。() 歳

Q 4 0 最後に卒業した学校はどれですか。ひとつに○をつけてください。

1. 中学校 2. 高校 3. 短大・専門学校 4. 大学 5. 大学院 6. その他 ()

Q 4 1 月経の状態について、各時点であてはまるものひとつに○をつけてください。

診断時 (a. 順 b. 不順 c. なし)

治療中 (a. 順 b. 不順 c. なし)

現在 (a. 順 b. 不順 c. なし)

Q 4 2 信仰する宗教はありますか。 1. ある 2. ない

アンケートは以上です。たくさんの質問にお答えくださり、誠にありがとうございました。

本アンケートへのご意見がありましたら、どんなことでも、下記にお書きください。

資料2 配偶者用調査票

Q1 あなたの妻が乳がんと診断されたのはいつですか

平成（ ）年（ ）月

妻の治療の内容について、あてはまるものに○をつけてください。

Q2 手術(複数回答可) 1. 乳房全摘術 2. 乳房温存術 3. うけていない 4. わからない

Q3 乳房再建手術 1. うけた 2. うけていない 3. わからない

Q4 放射線療法 1. うけた 2. うけていない 3. わからない

Q5 抗がん剤治療(複数回答可)

1. 点滴・注射 2. 飲み薬 3. うけていない 4. わからない

Q6 ホルモン療法(複数回答可)

1. 点滴・注射 2. 飲み薬 3. うけていない 4. わからない

Q7 以下の質問は、あなたが自分の健康をどのように考えているかをおうかがいするものです。あなたが毎日をどのように感じ、日常の活動をどのくらい自由にできるかを知るうえで参考になります。

以下のそれぞれの質問について、もっともよくあてはまるところに○をつけてください。

例 全体的にみて、過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。

最高に良い	とても良い	良い	あまり良くない	よくない	全然良くない
	○				

1. 全体的にみて、過去1ヶ月間のあなたの健康状態はいかがでしたか。

最高に良い	とても良い	良い	あまり良くない	よくない	全然良くない

2. 過去1ヶ月間に、身体をつかう日常活動(歩いたり階段を昇ったりなど)をすることが身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、妨げられなかった	わずかに妨げられた	少し妨げられた	かなり妨げられた	体を使う日常活動ができなかった

3. 過去1ヶ月間に、いつもの仕事(家事も含みます)をすることが、身体的な理由でどのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、妨げられなかった	わずかに妨げられた	少し妨げられた	かなり妨げられた	いつもの仕事ができなかった

4. 過去1ヶ月間に、体の痛みはどのくらいありましたか。

ぜんぜんなかった	かすかな痛み	軽い痛み	中くらいの痛み	強い痛み	非常に激しい痛み

5. 過去1ヶ月間、どのくらい元気でしたか。

非常に 元気だった	かなり 元気だった	少し 元気だった	わずかに 元気だった	ぜんぜん 元気でなかった

6. 過去1ヶ月間に、家族や友人とのふだんのつきあいが、身体的あるいは心理的な理由で、どのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、 妨げられなかった	わずかに、 妨げられた	少し、 妨げられた	かなり、 妨げられた	つきあいが できなかった

7. 過去1ヶ月間に、心理的な問題（不安を感じたり、気分が落ち込んだり、イライラしたり）に、どのくらい悩まされましたか。

ぜんぜん 悩まされなかった	わずかに 悩まされた	少し 悩まされた	かなり 悩まされた	非常に 悩まされた

8. 過去1ヶ月間に、日常行う活動（仕事、学校、家事などのふだんの行動）が、心理的な理由でどのくらい妨げられましたか。

ぜんぜん、 妨げられなかった	わずかに、 妨げられた	少し、 妨げられた	かなり、 妨げられた	日常行う活動が できなかった

Q8 以下の文章のそれぞれについて、妻が乳がんの診断を受けた結果、あなたの生き方にこれらの変化がどの程度生じたか、もっともあてはまるところにひとつ○をつけてください。

	(これらの変化を)	まったく経験しなかった	ほんの少しだけ経験した	少し経験した	まあまあ経験した	強く経験した	かなり強く経験した
1	人生において、何が重要かについての優先順位を変えた。	1	2	3	4	5	6
2	自分の命の大切さを痛感した。	1	2	3	4	5	6
3	新たな関心事を持つようになった。	1	2	3	4	5	6
4	自らを信頼する気持ちが強まった。	1	2	3	4	5	6
5	精神性（魂）や、神秘的な事柄についての理解が深まった。	1	2	3	4	5	6
6	トラブルの際、人を頼りに出来ることが、よりはっきりと分かった。	1	2	3	4	5	6
7	自分の人生に、新たな道筋を築いた。	1	2	3	4	5	6
8	他の人達との間で、より親密感を強く持つようになった。	1	2	3	4	5	6
9	自分の感情を、表に出しても良いと思えるようになってきた。	1	2	3	4	5	6
10	困難に対して自分が対処していけることが、よりはっきりと感じられるようになった。	1	2	3	4	5	6
11	自分の人生で、より良い事ができるようになった。	1	2	3	4	5	6
12	物事の結末を、よりうまく受け入れられるようになった。	1	2	3	4	5	6

	(これらの変化を)	まったく経験しなかった	ほんの少しだけ経験した	少し経験した	まあまあ経験した	強く経験した	かなり強く経験した
13	一日一日を、より大切にできるようになった。	1	2	3	4	5	6
14	その体験なしではありえなかったような、新たなチャンスが生まれている。	1	2	3	4	5	6
15	他者に対して、より思いやりの心が強くなった。	1	2	3	4	5	6
16	人との関係に、さらなる努力をするようになった。	1	2	3	4	5	6
17	変化することが必要な事柄を、自ら変えていこうと試みる可能性が、より高くなった。	1	2	3	4	5	6
18	宗教的信念が、より強くなった。	1	2	3	4	5	6
19	思っていた以上に、自分は強い人間であるということを見つけた。	1	2	3	4	5	6
20	人間が、いかに素晴らしいものであるかについて、多くを学んだ。	1	2	3	4	5	6
21	他人を必要とすることを、より受け入れるようになった。	1	2	3	4	5	6

Q9 この1週間のあなたのからだや心の状態についてお聞きします。

下の20の文章を読んで下さい。各々のことごとについて

◎もしこの1週間で全くないか、あったとしても1日も続かない場合は「1」

◎週のうち1～2日なら「2」

◎週のうち3～4日なら「3」

◎週のうち5日以上なら「4」

のところを○でかこんで下さい。

		この1週間のうちで			
		ない	1-2日	3-4日	5日以上
1	普段は何でもないことがわずらわしい。	1	2	3	4
2	食べたくない。食欲が落ちた。	1	2	3	4
3	家族や友人にはげましてもらっても、気分が晴れない。	1	2	3	4
4	他の人と同じ程度には、能力があると思う。	1	2	3	4
5	物事に集中できない。	1	2	3	4
6	ゆううつだ。	1	2	3	4
7	何をするのも面倒だ。	1	2	3	4
8	これから先のことについて積極的に考えることができる。	1	2	3	4
9	過去のことについてくよくよ考える。	1	2	3	4
10	何か恐ろしい気持ちがする。	1	2	3	4
11	なかなか眠れない。	1	2	3	4
12	生活について不満なくすごせる。	1	2	3	4
13	ふだんより口数が少ない。口が重い。	1	2	3	4
14	一人ぼっちでさびしい。	1	2	3	4
15	皆がよそよそしいと思う。	1	2	3	4
16	毎日が楽しい。	1	2	3	4
17	急に泣き出すことがある。	1	2	3	4
18	悲しいと感じる。	1	2	3	4
19	皆が自分をきらっていると感じる。	1	2	3	4
20	仕事が手につかない。	1	2	3	4

Q10 あなたと妻との関係についてお伺いします。以下に、日ごろ、妻との関係について、あなたがもつかもしれないさまざまな気持ちや態度を並べてあります。それぞれについて、日ごろのあなたの気持ちや態度にどのくらいあてはまるかを答えてください。「1. ほとんどあてはまらない」、「2. どちらかといえばあてはまらない」、「3. どちらかといえばあてはまる」、「4. かなりあてはまる」のうち、最も該当すると思うもの一つに○をつけてください。あまり考えすぎると決められなくなりますから、だいたいの感じで、できるだけすばやく判断してください。

	あ て は ま ら な い	ほ と ん ど	い ば あ て は ま ら な い	ど ち ら か と い え ば あ て は ま る	ど ち ら か と い え ば あ て は ま る	あ て は ま る か な り
1) 私たちは、カップルとして申し分のない生活を送っている。	1		2		3	4
2) 私と妻の関係は、ひじょうに安定している。	1		2		3	4
3) 私たちのカップル関係は、強固である。	1		2		3	4
4) 妻との関係によって、私は幸福である。	1		2		3	4
5) 私は、まるで自分と妻が同じチームの一員のようにあると、ほんとうに感じている。	1		2		3	4
6) 私は、妻との関係のあらゆるものを思い浮かべると、幸福だと思う。	1		2		3	4

Q11 診断の前と比較して、妻との人間関係全体に変化はありましたか。ひとつに○をしてください。

1. 良くなった 2. 変わらない 3. 悪くなった 4. わからない

Q12 診断の前と比較して、妻との性生活に変化はありましたか。ひとつに○をしてください。

1. 良くなった 2. 変わらない 3. 悪くなった 4. わからない
5. 診断前から性生活がなかった

Q13 以下は、あなたと妻との関係についての質問です。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そう は 思わない	まったく そう は 思わない
(1) あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2) あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3) あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4) 引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5) 家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6) あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8) 妻がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

Q14 以下は、あなたと妻以外の家族との関係についての質問です。それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。

それぞれの項目について、あてはまる番号に○をしてください。	非常に そう思う	まあ そう思う	あまり そう は 思わない	まったく そう は 思わない
(1) あなたに何か困ったことがあって、自分の力ではどうしようもないとき、助けてくれる	1	2	3	4
(2) あなたが経済的に困っているときに、頼りになる	1	2	3	4
(3) あなたが病気で寝込んだときに、身の回りの世話をしてくれる	1	2	3	4
(4) 引っ越しをしなければならなくなったときに、手伝ってくれる	1	2	3	4
(5) 家事をやったり、手伝ったりしてくれる	1	2	3	4
(6) あなたの喜びを我がことのように喜んでくれる	1	2	3	4
(7) お互いの考えや将来のことなどを話し合うことができる	1	2	3	4
(8) 家族がいるので孤独ではないと思う	1	2	3	4

厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）
分担研究報告書

海外のがん支援団体が作成した「就労支援」教材の分析

研究分担者 高橋 都 獨協医科大学公衆衛生学講座准教授
研究協力者 大久保 豪 東京大学大学院医学系研究科特任研究員

研究要旨：海外のがん患者支援団体が就労支援に向けて開発した資料を収集・分析し、わが国における支援リソース作成の方向性を考察した。アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、デンマークの7団体が公開している12教材を分析対象とした。資料の使用対象としては、患者本人、職場関係者（雇用主・上司・同僚）、医療関係者、労働組合関係者を想定したものが作られていた。本人向け教材には、治療中の仕事のマネジメント、雇用差別を禁止する法的根拠、経済的問題の軽減策、復職・就職・退職へ向けた計画作成などのトピックがとりあげられていた。職場関係者向けの教材では、がんに罹患した従業員との関係作り、職場でのサポート方法、復職・退職・死亡への対応なども解説されていた。国内向け資料の作成にあたっては、各種法的根拠やわが国の就労文化も考慮した実効性のある支援に向けた検討が不可欠であること、また、中小企業や個人事業主を対象とした教材開発の必要性も明らかになった。

A. 研究目的

わが国の患者・家族、医療従事者、産業保健スタッフ、企業関係者に向けた支援教材を作成する際の参考にする目的で、海外で評価の高い教材を収集し、分析した。

B. 研究方法

Googleで「cancer AND employment」を検索し、ヒットしたサイトのうち信頼できる支援団体が作製PDF教材12編をピックアップした。さらに、Googleで公開されていないものの海外の学会会場にブースを出していた支援団体から入手した資料も追加した。分析対象としたのはアメリカ、イギリス、デンマー

ク、オーストラリア、ニュージーランドの5カ国で作成された12教材である（表1）。アジア諸国については、英語圏のシンガポールと香港で作成された教材について集中的に検索したが、調べた限りは見つけることができなかった。

C. 研究結果

分析対象とした教材を表1に示す。

1) 各教材が設定する読者対象

12教材の読者対象は、治療を受ける本人向け、経営者・上司・同僚向け、医療者向け、労働組合関係者向けに大別された。患者・家族向けと経営者等向けの情報を1冊にまとめた教材

も存在した。教材の作成国と設定する読者対象を表2に示す。

2) 教材の出版年

出版年は、もっとも古いものが2002年、デンマークのDanish Cancer Society作成の資料であり、それ以外は2007年から2010年の間に出版されていた。

3) 教材を提供している団体の背景

もっとも多いのは大手の非営利がん患者支援団体であった。アメリカのCancer and Careers、National Coalition for Cancer Survivorship、イギリスのMacmillan Cancer Support、デンマークのDanish Cancer Society、オーストラリアのCancer Council Australia、ニュージーランドのCancer Society of New Zealandのように、大規模予算を持ち、さまざまな背景の専門家がスタッフとして所属して活動を展開する団体である。がん支援団体以外には、イギリス・ウィンブルドンに本部を持つ人材開発協会Chartered Institute of Personnel and Development (CIPD)のような人事労務専門家の業界団体が経営者・上司向けの教材を、またアメリカ連邦政府労働省のOffice of Disability Employment Policyが運営するJob Accommodation Networkが事業主に向けた教材を発表していた。Job Accommodation Networkは教材に加えて、障害者雇用におけるReasonable Accommodation (合理的配慮)に関する無料コンサルタントサービスも提供している。

4) 教材の内容

詳細な分析は現在進行中であるので、教材内容の概略について記す。

<経営者・上司・同僚向け教材>

経営者・上司・同僚向け教材が共通してとりあげるトピックを表3にまとめる。まず、ほとんどの教材が「がんとは何か」に関する医学的

説明を記載していた。もし経営者や上司ががんの5年生存率に関して医学的事実とかけ離れたイメージを持っていれば、適切な対応をとるのは難しい。したがって、がんに関する生物学的、疫学的な基本知識、治療内容の総論、発病が本人の心身に及ぼす影響などが説明されていた。経営者・上司として対応すべき点としては、本人とのコミュニケーションの取り方、同僚への対応、合理的配慮、さらに、会社組織と本人のニーズのバランスの取り方に関する記載が認められた。特に、本人とのコミュニケーションにおいては、「open and honest」を基本原理とすること、病状は個人情報ではあるが病気が就労パフォーマンスに及ぼす影響について経営者側は知る権利があること、したがってがん診断後に就労との関連で何らかの問題が生じる可能性があるのならその具体的影響について質問すること、が強調されていた。また、従業員の就労パフォーマンスの変化によって配置転換を余儀なくされる場合には、一方的に「A部署からB部署に行ってください」と告げるのではなく、その理由を示しつつ従業員と交渉し、もし就労条件の大きな変化がある場合には書面で同意をとることが勧められていた。従業員が退職を希望する場合には、その理由を聞くとともに、退職によって失われる種々の権利を理解しているか確認する必要性が記載されていた。全体として、病気や治療が引き起こすさまざまな変化を経営者や上司が独断で想像するのではなく、本人に聞いて事実を確認することが強調されていた。すべての教材に、がんを診断された被雇用者が持つ法的権利の具体的内容も説明されていた。

<本人向け教材>

本人向け教材の共通点を表4にまとめる。治療を受ける本人には、就労の教材とは別にがん

や治療に関する資料などが渡されることが多く、がんに関する総論部分はそれほど多くない印象がある。むしろ、発病による本人や介護者への影響、周囲とのコミュニケーションのとりかた、仕事のセルフマネジメント、患者の法的権利、差別を受けたときの対応法などが中心であった。

本人向けのアドバイスの例をニューヨークに本部を持つ支援団体 **Cancer and Careers** を例にして説明する(表5)。この教材では、自分にとっての就労の意味から記載が始まり、会社とのコミュニケーションのとり方や、一旦退職したあとの再就職場面への助言に続いていた。

会社とのコミュニケーションについては、障害を持つアメリカ人法による保護を受けるためには病名を経営者に開示することが前提であること、そして、がんと診断された従業員から雇用側への説明はできるだけわかりやすく明解に説明することが強調されている。自分の病状や就労パフォーマンスの変化を説明する際には、できなくなることだけではなく、「自分はこういうふうに対応すれば働けます」という提案をして、自分の能力を会社側にアピールすることが重要であると記載されている。さらに、会社側と定期的なミーティングを持つこと、権利の過度な主張は会社側を防御的にするリスクがあること、同僚に対する配慮の重要性などが記されていた。

再就職場面においては、必ずしも病名開示の必要はなく、自分が課された仕事内容が遂行可能かどうかを基準にして考えることが基本だと記載されてある。重要なのは、「その職で望まれるパフォーマンスができるのかどうか」である。障害者差別禁止法がある国では、病気の存在が外見などから明らかである場合、就職面接で病気と就労パフォーマンスについて質問するのは許されても、発病の経過や治療内容など、就労

と直接関係ない物事を面接官が質問するのは違法になる。したがって本教材でも、面接を受ける場合には病気関連の質問に対しては就労パフォーマンスに特化して答えればよい、と助言されている。さらに、内定後に雇入時健診を受けるのは被雇用者の義務ではあるが、その時点で新たな健康問題が見つかったとしても、仕事が遂行可能な場合にはその健康問題をもって解雇するのは違法になることも記載されていた。

D. 考察

がんと就労に対する支援教材の多くはこの数年で発表されており、このトピックについて国内外の動きがかなり同期していることがうかがわれる。

記載内容としては、教材間に共通して、雇用者と被雇用者双方の説明責任の重要性が強調されていた。日本の労働者も多くの権利を有しているが、それらの権利を被雇用者が正確に理解しているのか、雇用側には確かめる責任がある。少なくとも短期的な見通しについて明解にコミュニケーションをとる必要がある点が重要であることについては、海外と日本の状況は共通していると言えるだろう。

今回分析した教材は冊子体であり、PDFとしてインターネット上で公開されていたが、これらを作成した団体では他の媒体、たとえば体験談を芝居仕立てにしたDVDや、研修会用のパワーポイントスライド(原稿つき)なども作成されていた。教育効果を高めるためのこのような工夫は、わが国でも今後検討が必要である。

E. 結論

アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、デンマークの7団体が公開している12教材について、教材の対象と内容に

ついて分析した。

F. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

- 1) 大久保豪, 高橋都, 武藤孝司, 森晃爾, 和田耕治, 甲斐一郎, 多賀谷信美, 丸光恵, 春名由一郎: がんサバイバーの就労支援教材の分析: 海外(英語圏)の患者支援団体の資料から. 第69回日本公衆衛生学会示説発表, 2010年10月(東京)
- 2) 高橋 都: がん治療を受ける患者と家族の就労支援: 治療医・産業医・人事 労務担当者の連携に向けて. 第28回産業医学学会総会 シンポジウム「有病者の就業配慮」 2010年10月(北九州)

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

その他 なし

表 1 海外の支援教材リスト (PDFで入手可能なもの)

タイトル	団体名	国	出版年	対象	頁数	URL
Working It Out: Your Employment Rights as a Cancer Survivor	National Coalition for Cancer Survivorship	USA	2007	本人	28	http://www.canceradvocacy.org/resources/publications/working-it-out.pdf
Work and Cancer	Macmillan Cancer Support	UK	2009	本人	86	http://www.macmillan.org.uk/GetInvolved/Campaigns/WorkingThroughCancer/WorkingThroughCancer.aspx
Self-employment and Cancer	Macmillan Cancer Support	UK	2010	本人	82	http://www.macmillan.org.uk/GetInvolved/Campaigns/WorkingThroughCancer/WorkingThroughCancer.aspx
Living and Working: Living and Working with Cancer Workbook	Cancer and Careers	USA	2010	本人	60	http://www.cancerandcareers.org/
Working through Cancer: a Guide for Managers	Macmillan Cancer Support	UK	2009	経営者・上司	32	http://www.macmillan.org.uk/GetInvolved/Campaigns/WorkingThroughCancer/WorkingThroughCancer.aspx
Cancer and Working: Guidelines for Employers, HR and Line Managers	Chartered Institute of Personnel and Development	UK	2005	経営者・上司	34	http://www.cipd.co.uk/subjects/health/general/_cncrwrk.htm
Accommodation and Compliance Series: Employees with Cancer	Job Accommodation Network	USA	2010	経営者・上司	13	http://askjan.org/media/downloads/CancerA&CSeries.pdf
Working with Cancer	Cancer Council Australia	Australia	2007	経営者・上司	83	http://www.cancer.org.au/File/Cancersmartlifestyle/Workingwithcancer/workingwithcancer_intro.pdf
Managing Cancer in the Workplace	Cancer Society of New Zealand	New Zealand	2009	経営者・上司	3	http://www.cancernz.org.nz/
When an Employee Develops Cancer	Danish Cancer Society	Denmark	2002	経営者・上司	64	http://www.cancer.dk/om+os/The+Danish+Cancer+Society.htm
A Guide to Helping Patients Manage Cancer & Work	Cancer and Careers	USA	2009?	医療者	33	http://www.cancerandcareers.org/
Cancer in the Workplace: a Workbook for Union Representatives	Macmillan Cancer Support, Unionlearn, TUC	UK	2010	労組関係者	60	http://www.unionlearn.org.uk/publications/index.cfm?frmPubID=175

表2 出版国と教材対象

印刷教材の対象	患者本人	雇用主・ 上司・同僚	医療従事者	労働組合
教材数	4	6	1	1
UK	○	○		○
USA	○	○	○	
オーストラリア	○	○		
デンマーク		○		
ニュージーランド		○		

表3 経営者・上司・同僚向け教材のトピック

- ・ がんとは何か：医学的解説～疫学・治療内容など
- ・ 発病による本人への影響：身体的・精神的変化
- ・ 上司や同僚への心理的影響
- ・ 経営者・上司が検討すべきこと
 - 1) 本人とのコミュニケーションのとりかた
 - open and honest、就労に特化して聞く、就労条件変化時の対応
 - 退職希望時の対応、法的権利を理解しているか確認、
 - 変化を想像するのではなく本人に聞く
 - 2) 同僚への対応：公表方針を本人と相談、同僚の反応の把握、対応策を相談
 - 3) 合理的配慮の検討
 - 4) 会社組織と本人のニーズのバランスをとる
- ・ がんと診断された被雇用者の法的権利

表4 本人向け教材のトピック

-
- がんとは何か：医学的解説など
 - 発病による本人・介護者への影響
 - 周囲とのコミュニケーション：経営者・上司・同僚
 - セルフマネジメント
 - 仕事の調整方法
 - ストレスや症状の緩和法
 - 法的権利、差別を受けたときの対応法
-

表5 本人向け教材の例 (Cancer & Careers)

-
- 「働くこと」の優先順位を再検討する
 - 何のために働くか、会社は支援的か、退職で何を失うか
 - 会社とのコミュニケーション
 - 法的保護を受けるためには説明が不可欠
 - 明解な説明と解決策の提案
 - 定期的なミーティングを持つ
 - 権利の過度の主張は相手を防御的にする
 - 同僚に対して：負担減に向けた対応策の提案・相談、感謝
 - 求職場面：すべては「この仕事ができるかどうか」
 - 面接の受け方：
 - 何らかの健康問題と業務遂行能力の関係は聞かれる
 - 健康問題の有無や原因を面接で聞くのは違法
 - 内定後の対応：雇入時健診は義務
 - その異常による解雇は仕事が遂行不可能の場合のみ
-

Ⅲ 研究成果の刊行に関する一覧表